文書館からのお願い

歴史や古文書を学ぶ人は、過去の古文書が現在にまで伝わり、広く利用できることを、ごくあたりまえのことだと考えがちです。しかし、焼失・破損・散逸の危機から守り、それを伝えてきた人々の努力があってはじめて古文書は現存するものであること、また、もともと私有物であることの多い古文書が広く利用できるのは、学術・文化の発展に対する所蔵者の理解があってこそであることを、忘れてはならないと思います。

古文書はもともと公開を前提にして作成されたものではなく、また、歴史資料にはそれぞれの時代性が反映されているのが普通であるため、中には他人に知られたくない事柄や、過去の人権意識の遅れを表す事柄などが含まれている場合があります。これらの資料は、利用のしかたを誤れば、他人のプライバシーを侵したり、悪質な差別のもととなるなど、深刻な人権侵害を引き起こすおそれがないとはいえません。当館では、これらのことに配慮しつつ業務を行っており、また、利用者にも呼びかけています。

古文書に親しまれる皆さんも、以上の点に御注意いただき、所蔵者との信頼関係を大切に、また、人権・プライバシーを侵害することのないよう十分配慮のうえ、郷土史やくずし字の勉強を進めてくださるようお願いいたします。